

NGO フランシスカンズ・インターナショナル関西 レポート No.2

総会が開かれました

11月23日(祝)、京都のフランシスコの家(堀川四条西)で10名の出席で開かれました。

チネカ神父の話

先週チネカ神父は、韓国で開かれたNGOの世界大会に参加しました。参加者は全世界から7000人ほど集まりました。チネカ神父はこの中で、アメリカ人で韓国で修行して禅僧になった人の話を、非常に印象的なものとして紹介しました。この内容を聞いた後、全員で話し合いました。

韓国のアメリカ人禅僧の話の要点

この地球という惑星に住んでいる生命にはもう時間がない。今生き物にとって一番重要なことは、環境の状態である。これは国や民族、宗教を超えた課題である。物質的な欲望に駆られて、生命そのものが破壊されようとしている。現代社会の競争経済がこの破壊を引き起こしている。お互いに妥協しようとしなくて、毎日消費社会に生き、経済成長と快適な生活を求め続けている。

このことが私たちの周りのあらゆる生命を害している。空気を汚し、水を汚し、土を汚して、人間より弱い植物、動物、昆虫を全滅させようとしている。地球の温暖化は恐ろしい勢いで進み、気候も激しく変動するようになり、大雨は多くの人々から住むところを奪っている。私たちが投げ捨てているゴミは全ての生き物に恐ろしい病気を引き起こしている。これらは人間のわがままや欲望が生じさせたものである。

私たちが今まで持っていた「地球は人類の生活に奉仕するため」存在しているものという考え方はもはや通用しない。「人間中心」という命のとらえ方がこの惑星の悲劇的状況の元凶と考える科学者がだんだん多くなってきている。今無数の生物が経験している困難、最悪の状態の本当の原因は人間の欲望にあるのであり、人間の底なしの欲望が地球を危機に陥れているのである。

お釈迦様は欲望と怒りと無知がすべての苦しみの原因だと教えている。私たちが行動を起こさなければ、いずれこの三つの毒がすべての生命を滅ぼすに違いない。私たちは瞑想することで、宇宙全体の性質であり、私たちの本来持っている性質について深く考え、究明しなければならぬ。そして毎日、環境に害を与えることなく、地球のためになるような行動をすることが大切である。もしそうしなければ欲望と怒りと無知が私たちを殺し、世界を早死に追いやるであろう。

禅僧の話についての話し合い

紹介されたアメリカ人の禅僧の話について、みんなで感じたことについて話し合いました。

- ・地球の破滅という少し大げさな表現がされているが、私たちの欲望とは毎日風呂に入りたくとかごちそうを食べたいということではないだろうか。
- ・時間が足りないという切迫感を感じている。しかしそれをパニックにならないよう伝える方法はないか。
- ・今から50年前に戻れないものだろうか。便利な電気製品などが増えてしまってこれだけ地球が危なくなっているのかも知れない。
- ・「地球は父母」という言い方がされるが、本当に私たちは地球から限りない恩恵を受けてきているのではないか。それで地球が老いてしまったのなら、これから人間が地球に恩返しする番である。
- ・私たちが受け取っているのは天からの恵み、地からの恵み、人からの恵みであることを忘れてはならない。
- ・今の地球の末期症状をなんとか遅らせたいものである。
- ・カトリック教会の中で「環境問題」というと反発を感じたり、抵抗したり、無関心の人たちがいる。
- ・司祭にも関心を持っている人と、持っていない人がいる。
- ・環境問題は、イエスのおっしゃっている「貧しさに生きること」を広めることが大切ではないだろうか。
- ・あれほどの人口を持つ中国が今アメリカ並みの文明生活を送ろうとしている。中国全体がアメリカのような消費生活を送ると2006年には地球の命がなくなる。
- ・殺虫剤のことについて読んでいたら、日頃何気なく使っている殺虫剤の何通りかの化学物質が自然に分解して合わさって極めて多くの種類になっていき、その効果も毒性も分からないまま濃縮されて人体が犯されるといふ背筋が寒くなる事実が分かった。
- ・日本の川でダムのない川は一本しかなく、海も汚れている。本当にどうなるか心配でたまらない。
- ・ダムの問題、森の問題といろいろ心配なことはあるけれども、身近な買い物袋持参とか、(裏面に続く)

問題の商品は買わないなども大切ではないか。

- ・地球は壊滅的で残り時間はわずかしかないという人がいるが、実感は湧かない。大げさに言いすぎではないか。みんな実際にそのように後数年か数十年しか持たないと思っているのだろうか。
- ・期限が何時までかは誰にも分からない。自分の生活を質素にすることが大切だと思っている。
- ・環境を守る運動を進める中では、お互いの運動について疑問をもってはいけけないのではないか、地球規模では考えるが足元から行動するというのが共通のスローガンである。
- ・教会の中では環境について話かけても乗ってくる人はほとんどない。他の宗教の教団では、話しかけたらすぐ反応してくれるところもある。
- ・教会はもっと外の社会がどうなっているかに目を向けて、外に出ていかなければならない。
- ・日本が今進んでいる道はグローバリゼーションというが、実際にはアメリカゼーション、あるいはコココーラをもじってコココロニゼーションと言われている。これからどうなることだろうか。

ティータイム

日本の行く末に話が弾んで、少し熱を冷ますためにティータイムを取りましたが、その中で自由にいるようなことが話題に上りました。ちょっぴり紹介します。

やはりお金が一番という考えは戦後のアメリカの影響ですかねえ。 いやお金は悪魔のもので、人間誰でも一番欲しいのかもしれないね。 イエス様は貧しいことは幸せであると言っておられるのは、そのことでしょうか。 年をとると多少お金が欲しいということから変わってきて、人のために何かしたいという気持ちも出てきたような気もしますが。 衣食足りて礼節を知るといいますが、少しは日本も良くなっていくのでしょうか。 やっと少しは気付いてきているかも知れませんがね。

これから一人一人こんなことをやっていきます

話し合いの結果、今日から私たちが具体的に行動する内容を出し合いました。

割り箸集めを続けます。

教会の神父様に強くアピールします。

周りにいる人たちにねばり強く語りかけます。

スライド・ポスターなどを制作して視覚に訴えます。

回収品の再生工場、ゴミの処理場などを見学して自分の目で確かめます。

便利さの反対は危険であることを婦人たちに訴えます。

福音センターの計画の中に、環境コースを置いてもらうよう働きかけます。

教会内で割り箸を使っていたところに塗りの箸を使うように働きかけます。

アムネスティが活動しているような、弱い人にも目を向けていきます。

参加者は次の方々でした

チネカ神父、安藤、飯山、岩橋、岩橋、江端、岡崎、奥田、内藤、中村（アウイ順）

今年、次の方々からご援助をいただきました

1999年、私たちのNGO活動にご寄付をいただきました。どうもありがとうございました。

小山教会金曜会様、 鍵主様、 平岡修様

今回の総会は、2000年1月30日(日)、14時～16時 木幡・岩橋宅で行います。

行き方 宇治市木幡・JR六地藏駅改札を出て右に曲がりJRのガードをくぐります。最初の道を右に曲がり、その道の最初の信号を左に曲がって下さい。左手がイトーヨーカ堂、その道の最初の信号の右手が御蔵山商店街です。その商店街を歩いて左手にフカイ電気があり、その手前を右に曲がって下さい。そうすると左手に神野医院があり、ついで茶畑、ついで3軒目「登り助育センター」の看板があります。その下の家です。さあこの道順で一発でたどり着いた人は、方向感覚抜群です。

わからなくなったら電話0774-32-6421に助けをどうぞ。

当日 一緒に割り箸の整理をしますので、軍手・エプロン・マスクを持ってきて下さい。

発行責任者 ライト・ネカ神父 (NGO フランシスカン・インターナショナル日本・関西支部 代表者)
〒600-8391 京都市下京区佐竹町 388 フランシスカンの家 TEL・FAX 075-822-2369